



かがやいている。

そらが、かがやいていた。

きらきらの雨粒が、天空全体に広がり、
反射した太陽の光で、
きらきらきらきら。

陰鬱の目がぎょろりとうえのほうを見上げると
そこに見たそらは、水で輝いていた。

いや、どちらかというと
そらというよりも、雲が輝いていた。

何故

何故私に宝物のような風景が広がるのか。

このすわっているばしょからせかいがひろがる。

オレンジ、あか、きいろ。

こどものとき（てきとうに）混ぜ合わせたえのぐのそらが
めのまえにうすーくのばしたようにひろがっている。

なんでもない、都会の片隅の風景。

私が見ている風景以外、時間が止まっていた。

不気味なものに、私が飲み込まれると、

私もあの

不気味なものに、なるのかな・・・。

パステルカラー

輝きの雲に照らされて
何故世界はパステルカラーに染まるのだろう。

宇宙のさきの、たいようから
降りそそぐひかりが
くもで反射して
きらきらになって
きらきらが　しゃーっと　せかいを包む

この世界の全ては、霧で覆われている。
光をきらきらに変える　ふしぎな霧で。

パステルカラーの輝きは
あそこから、あそこまで、不思議な色で照らす。
ううん、照らしてるんじゃない。

浮き上がらせているの。

虚空

この世界を、私が名づけるのならば

「虚空」と名づけよう。

なにもない。限りなくいろいろなものがあるのに、なにもない。

そう、人間の手はちいさい。受けとめきれない。

想いも、大切なモノも。

全て指の間からするっと抜け落ちてしまう。

虚空の世界に輝く、雲・・・。

人々の、ありのままの、願い事を、
空の、高い高いところに、浮かばせて、

私たちには、きらきらだけ見えて
私たちの手には

きらきらは、一粒も、残らない・・・。

ああ、なんで綺麗に見えるのか分かった。

それは、私の、絶望だった。
例えば、末期ガンの患者が残りの命があとわずかだというとき、
世界が物凄くきらきらしているらしい。

ああ・・・わかった。わかった。

全て、

零れ落ちてしまっていたんだね。

人生、何もかも。

ぐるぐるぐるぐる
地球のまわりの

絶望のうずまき
輝きの雲
いつ消えるとも
分からない
希望のきらきら。

私の躁鬱が、世界を歪ませる。

きれいなせかいと
きれいなおもいが
きらきらきらきらきら

希望を裁たれたわたし
タコ糸の切れた 凧のように
ふわふわ、妄想は世界に舞い上がって
ぐちゃぐちゃに揉まれて
死ぬんだろう。

それでも、輝きの雲の
水滴に揉まれて
ボロボロに穴だらけになって
水滴ではねが破れて
地面に墜落するだけ
いいのかもしれない・・・。

輝きの雲

<http://p.booklog.jp/book/26684>

著者：せいうんですよ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/seiundesuyo/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/26684>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/26684>